

# 一般質問・質疑

12月5日、6日、7日の本会議では、18人の議員が質問に立ち、子ども施策の今後の取り組みや風疹対策、性的少数者(LGBT)への支援などについて、市の見解を求めました。なお、発言者と質問項目の一覧は下段に、主な内容は2面から5面に掲載しています。

## 発言者一覧

— 発言順 — ( ) は会派名

**梅田 宏希**(公明党)

- ①風疹対策 ②(仮称)「おくやみコーナー」窓口設置 ③動物と共生するまちづくり ④教育行政の充実 ⑤生産緑地地区制度の導入

**永井 俊作**(未来市民)

- ①持続可能な明石市政と正規職員1,800人体制 ②障がい者雇用とユニバーサル社会 ③安全な水の確保と水道事業の民営化 ④市民病院の建てかえ

**宮坂 祐太**(民主連合)

- ①上下水道の今後のあり方

**山崎 雄史**(真誠会・代表質問)

- ①泉市政のこれまでの成果と今後の課題 ②子ども施策の今後の課題と対応

**松井 久美子**(公明党)

- ①性的少数者(LGBT)施策の推進 ②市内の地場産業に取り組む若者への支援を ③平成31年度からの胸部検診の見直し

**中西 礼皇**(未来市民)

- ①市有施設の包括管理業務委託 ②喫煙マナーとルール ③市役所内のパワーハラスメント

**尾仲 利治**(民主連合)

- ①防災 ②児童生徒が生き生きと生活できる環境作り ③明石市の今後の幼児教育のあり方

**林 健太**(真誠会)

- ①安全なまちづくり ②学校教育 ③明石市更生支援及び再犯防止等に関する条例

**尾倉 あき子**(公明党)

- ①国の2018年度補正予算における学校の緊急重点安全確保対策 ②不育症治療への助成

**丸谷 聡子**(未来市民)

- ①ため池カルテを活用した地域づくり ②子どもたちのための放課後児童クラブのこれから ③自殺予防の取り組み ④環境意識を高めるリユース食器の活用

**辰巳 浩司**(真誠会)

- ①将来を見据えた人口減少対策 ②中学校給食

**佐々木 敏**(公明党)

- ①市民会館の今後のあり方 ②災害時のドローン(無人航空機)の活用 ③児童の下校時の安全対策 ④消費生活センターの充実

**国出 拓志**(公明党)

- ①盲導犬に対する助成 ②防災・減災対策 ③市制施行100周年記念事業シンボルマーク

**楠本 美紀**(日本共産党)

- ①コミュニティ・スクール ②放課後児童クラブ ③保育所待機児童 ④生活保護基準引き下げによる就学援助への影響

**家根谷 敦子**(スマイル会)

- ①こども食堂 ②生涯学習センター分室の活動

**遠藤 恒司**(自由民主党)

- ①泉市長の実績の評価と今後の取り組み

**北川 貴則**(無所属)

- ①人口増と減税 ②福祉の充実 ③学校園の給食無料化 ④天文科学館の年始開館 ⑤2019成人式

**辻本 達也**(日本共産党)

- ①J T跡地に係る懸案事項 ②斎場の諸問題と今後の不祥事対策 ③県道380号線の安全対策 ④都市計画道路の整備と周辺への影響 ⑤公職選挙法に基づく寄附の禁止

## 児童相談所の開設

### 職員の専門性と対応力が必要 虐待防止研修センターの誘致検討

**問** 平成31年4月に開設する児童相談所の職員の質の確保策について問う。

**答** 児童相談所では、福祉や保健等の各種支援サービスを組み合わせ、きめ細かい対応を迅速に行えるよう準備を進めている。子どもや家庭の状況に合わせ、対応するには、職員は専門性と対応力が必要であり、実践の積み重ねと専門性の高い研修、他の児童相談所職員との情報交換を通しての研究などが不可欠



完成間近の児童相談所

である。国は増加する子ども虐待事案に対応するため、虐待防止専門の研修センターを西日本にも設置する予定だ。このセンターは、

要と認識している。

## 風疹対策 予防接種を勧奨 費用の助成を

**問** 風疹が流行し、患者数は全国で増え続け、感染拡大が懸念される。抗体検査や予防接種を実施し、抗体保有者を増やす取り組みが必要と考えるが、市の見解を聞く。

た人やワクチンを2回接種した人は感染しないが、妊婦が感染すると胎児が難聴や心臓の病気等を発症する恐れがある。例年100人前後の患者数が、平成30年は2千人を超え、そのうち3分の2が30歳から50歳代の成人男性である。本市でも40歳代の男性2人が感染した。この年代の男性は予防接種をしていない人が多く、対策が必

国は30年度の補正予算案に抗体検査の実質無料化を盛り込み、検査の結果、免疫がない人へ予防接種を勧めることや、公的な予防接種の対象年齢を30歳から50歳代の男性に拡大することを予定している。本市も国の動向を注視し、予防接種費用の助成について検討していきたい。

## 放課後児童クラブ

### 指導員の配置基準緩和 市の責任で質を確保

運営費を全て国が負担した上で、適切な自治体を選定し運営を任せるとの考え。子ども支援の第一線で活躍する人材が集う高度で専門的な機関が身近にあれば、職員の質の向上に効果的と考える。そのため、本市が研修センターを運営する自治体となることについて検討を進めたい。

**問** 明石市更生支援及び再犯防止等に関する条例の制定により、罪に問われた人が市外から本市へ集まるのではな

**答** 更生支援は、これまで特段の支援を受けることがなかった再犯リスクの高い罪を犯した障害者等が、地域で自立した生活ができ、再

国は放課後児童クラブの指導員の配置基準と資格要件を緩和する方針を示したが、市の見解を聞く。

そのうち1人は保育士や教員等の有資格者で都道府県が実施する研修を受けた人と定められているが、この基準緩和により、今後は市の責任と判断で配置を行うことが可能になる。本市では、待機児童の発生を抑制するため



安心して過ごせる放課後児童クラブ

の取り組みとともに指導員の質の確保についても責任を持つ必要があると考えている。今後も指導員には原則、有資格者を複数配置し、無資格者の場合には、十分な研修を行った後

に配置する予定だ。また、指導員の育成や資質の向上、指導体制を強化するため、市独自の研修を実施するほか、各クラブを巡回、指導する監督者の配置なども検討している。

## こども食堂

### 誰もが集える みんな食堂へ

び罪を犯さないために必要な支援を行うものだ。これは、本市が進める誰もが安全に安心して暮らすことができるとの共生のまちづくりの一環と位置付けている。支援の対象としては、罪を犯す前から明石市民であった人を想定している。

これまでにも広報紙やチラシの配布、イベントの開催等を行ってきたが、制度の趣旨を分かりやすく効果的に知ってもらえるよう、条例の解説を含むパンフレットを作成するなど、市民の関心と理解が深まるように啓発していきたい。

**問** こども食堂の現状と、高齢者や障害者など、子どもに限らず誰もが気軽に集える「みんな食堂」について聞く。

含め、誰もが一緒に暮らす地域で暮らせるインクルーシブの観点から、誰もが気軽に立ち寄り利用できる、交流と支え合いを育む地域拠点としての機能が期待できると認識している。すでに一部のこども食堂では、高齢者等に参加を呼びかけている。市としてもこの取り組みが広がるように応援するとともに、各こども食堂の現状や地域の特性を踏まえ、みんな食堂への展開が可能などから、関係機関と連携して、取り組みを進めていきたいと